



地域の国際化にともない、学校現場にも外国につながる児童生徒が増えています。学校や教員だけでなく、自治体や市民団体など、地域全体で彼らをサポートする必要がある一方、多様な背景を持つ彼らは将来の地域の重要な担い手でもあります。様々な立場で活動されるゲストからお話を聞き、教育の視点から多文化社会について一緒に考えてみませんか？



● 基調講演：「外国につながる子どもの教育 現状と課題」(仮)

小島 祥美氏 (東京外国語大学多言語多文化共生センター長/准教授)

小学校教員、NGO 職員を経て、一地方自治体(岐阜県可児市)の全外国籍の子どもの就学実態を日本で初めて明らかにした研究成果により、同市教育委員会の初代外国人児童生徒コーディネーターに抜擢。大学生のボランティア活動や地域との連携を推進する教育センター(CCC)開設に伴って愛知淑徳大学に着任し、交流文化学部教授を経て、2020年9月より現職。文部科学省「外国人学校の各種学校設置・準学校法人設立の認可等に関する調査委員会」「夜間中学設置推進・充実協議会」委員をはじめ、全国各地の自治体の外国人教育にかかわる委員を歴任。文部科学省「外国人児童生徒等教育アドバイザー」もつとめる。

● 事例提供：

「学校だから『やれること』『やらないといけないこと』『やらない方がいいこと』」

菊池 厚子 氏 (元広島市立中学校 教諭)

理科教員ながら広島市立幟町中学校では帰国入国生徒学習教室を、同市立国泰寺中学校では日本語学習教室を担当。日本語指導のみならず、教科学習の支援や体験学習の促進、外部機関の活用や日本の教員、生徒への異文化理解にも尽力した。

「市民団体だからできること-広島県呉市での取組から-」

伊藤 美智代 氏 (「ひまわり21」「ワールド・キッズ・ネットワーク」代表)

永年にわたり、外国人のための日本語教育や学習支援活動を展開、コーディネーターとして行政や学校など多様な関係機関が市民と共に参加するようデザインし日本語教育を通じた多文化共生の実践の場づくりに貢献している。

● トークセッション：「学校、地域は誰のもの？-多様な立場から考える多文化社会-」

(進行：JICA 中国)

日時

2023年7月1日(土) 13:00~16:00

会場
・
定員

- ① 会場参加：JICA 中国 306 会議室 (定員 30 名)
- ② オンライン：Zoom ウェビナー (定員 300 名)

※対面・オンラインのハイブリッド開催です。お好きな方法でご参加下さい。
※オンライン用機材のため、会場がやや狭くなる場合があります。
※いずれも応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。

対象

テーマに関心のある方どなたでもご参加ください

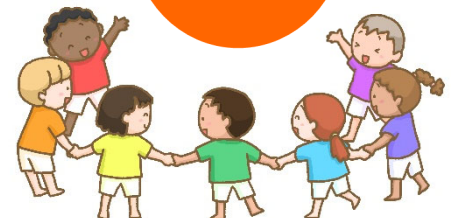
お申込み
フォーム



<https://forms.office.com/r/Vs2MKHygYv>

実施3日前に確認メールをお送りします。
ウェビナー参加の方には当日のリンク先もそちらでご案内します。

参加費
無料



お問合せ：JICA 中国 市民参加協力課 新川 (メール：jicacice@jica.go.jp TEL 082-421-6305)

主催：JICA 中国 (広島県東広島市鏡山 3-3-1)

後援：広島県教育委員会、岡山県教育委員会、山口県教育委員会、鳥取県教育委員会、島根県教育委員会、
広島市教育委員会、岡山市教育委員会